

平成 22 年度 第 2 回陸上掘削部会執行部会 議事録

日時 2010 年 10 月 22 日 (金) 10:00-15:00

場所 JAMSTEC 東京事務所 大会議室

出席者 (敬称略)

部会長：佐藤比呂志 (東京大学地震研究所) 部会長補佐：井龍康文 (名古屋大学)

委員：小笠原宏 (立命館大学) 廣野哲朗 (大阪大学) 町山栄章 (海洋研究開発機構) Mori James Jiro
(SAG 委員・京都大学) 山元孝広 (産業技術総合研究所)

小泉尚嗣 (産業技術総合研究所) 岩森 光 (SAG 委員・東京工業大学) 高嶋礼詩 (北海道大学)
山田泰広 (京都大学)

オブザーバー：

海洋研究開発機構：東 垣 (EC 委員・CDEX) 伊藤久男 (CDEX)

文部科学省海洋地球課 柴田晋吾 酒井祐介

事務局：阿波根直一 (CDEX)

欠席者 (敬称略)：

委員：長沼毅 (広島大学) 功刀 卓 (防災科学技術研究所) 浦辺徹郎 (東京大学) 小村健太郎 (防災
科学技術研究所) 中田節也 (東京大学地震研究所)

議事次第

1. J-DESC陸上掘削部会の会計手順について (会計担当：山田委員) [資料 1]
2. AOG報告 (MEXT柴田企画官)
3. COREFおよびGONAFの状況について (井龍部会長補佐、伊藤オブザーバー) [資料 2、3]
4. 海外動向 [資料 4、5]
5. 国内動向
6. その他
 - 過去の陸上掘削に関する資料の収集について [資料 6]
 - J-DESC 法人化検討チームについて (2名選出)
 - 次年度 J-DESC 体制について
 - JPGU「地球掘削科学」セッション
 - J-DESC ニュースレター掲載記事 (ICDP/陸上掘削部会) の募集について
 - J-DESC 上半期予算執行状況 [資料 7]

配布資料

資料 1：陸上部会 会計処理方針 (案)

資料 2：COREF について

資料 3：GONAF について

資料 4：DOSECC New Equipment

資料 5：ICDP ワークショップ情報

資料 6：過去の陸上掘削に関する資料の収集について

資料7：J-DESC 上半期予算執行状況

0. 開催の挨拶

佐藤部会長による開催挨拶の後、各委員の自己紹介が行われた。

1. J-DESC 陸上部会掘削部会の会計処理手順について

山田委員（会計担当）より、資料1にもとづいて陸上掘削部会の会計処理手順の説明が行われた。

陸上部会経費にて執行する案件（執行部会旅費等）および J-DESC 共通経費にて執行する案件（コアスクール等）について、本手順に従って事務処理を行う。

請求については、資料1に示す様式または証憑類を事務局に送付する。事務局は、これらを取りまとめて IODP 部会・陸上掘削部会の会計担当へ各々を転送する。会計担当は、内容を確認の後に学会支援機構へ支払いの指示を行う。

- 会計担当者交代等もあるため、申請様式等はまず事務局へ送付する。
- 証憑類のない場合（公共交通機関利用等）は、様式の電子ファイルのみをメール送付することで良い。
- 航空券については領収書を提出（→領収書のみで可）
- 宿泊費の上限について J-DESC として規程はないが、国公立大学・研究機関の旅費規程の範囲内とする。
- 請求書払い・立替払い等については、必要に応じて事前に部会で承認をとること。また、その宛先は日本地球掘削科学コンソーシアムとすること。

会計処理手順書に一部追記のうえ、後日再配布することとする。

2. AOG (ICDP 理事会) 報告

MEXT 柴田企画官より、7月に北京で開催された AOG について報告がなされた。

主として Full Proposals の審議（6件）がなされた。このうち、AOG が承認したプロポーザルは以下の4件であった。

- ◇ Yellowstone (Hot Spot-Snake River)
- ◇ COREF
- ◇ GONAF
- ◇ Arizona (Colorado Plateau)

また、Preliminary Proposals（3件）、Workshop Proposals（8件）について、SAG 及び EC における審議結果の報告を受けた。

ICDP 全体の予算案について、ICDP ではある程度の繰越金（5M US\$程度）を毎年確保しているが、来年・再来年について新規プロジェクトの執行予定が増えているので、支出が増えて繰越額が減ることが見込まれている。ICDP の国際評価について来年の始めにポツダムにて評価委員会の開催を検討している（前回は2005年11月にポツダムにて開催）。なお、次回 AOG は来年6月下旬、欧州（候補地：フランス）で開催する方向で調整を行なうこととなった。

3. COREF および GONAF の状況について

1) COREF プロジェクト

資料2にもとづき、井龍部会長補佐より COREF プロジェクトの概要・経緯・体制・現状について説明がなされた。事業費として1億2千万円程度の規模であるが、ICDP より0.3M US\$の支援が7月のAOGにおいて認められている。本プロジェクトに興味を持つ研究者が内外におり、実際に掘削が開始されたら、研究体制の一部を国際公募にしたいと考えている。事業費について、地元の掘削業者と直接契約することで幾分か節約できる見通しである。現在は民間助成団体等への予算申請を進めるとともに、現地の情報収集を実施している。

2) GONAF プロジェクト

資料3にもとづき、伊藤オブザーバーから GONAF プロジェクトの概要・経緯・体制・スケジュールについて説明がなされた。当初は地震のリアルタイム観測・早期警戒等の応用面に重点を置いていたが、リバイス後のバージョンでは、より科学的側面を強調した内容に変更されている。また、SAG・EG から指摘されたコメントを踏まえてどのように実施していくか関係者間で検討する。実施スケジュールの見直しについてはまだ進展がないが、今年11月にドイツ側研究者2名が別件で来日するので、可能であれば国内関係者とも議論する場を持ちたい。

3) その他

日本からプロポーネントが出ているという事でいえば、DEAD SEA プロジェクト(日文研・安田教授)がある。名古屋大の北川氏を通じて情報を収集することを検討(井龍部会長補佐)。阿蘇プロジェクトWSについて今回は諸事情により承認が見送られたが、サイエンスに関しては問題ないと考えている(東EG委員)。

4. 海外動向

井龍部会長補佐から今年度AOGで受理されたICDP活動(掘削およびWS)について、日本からの参加も念頭に以下のプロジェクトに対して担当者を設定し、ワッチをお願いした(資料5)。これに基づき、各プロジェクトの進捗状況等の情報交換が実施された。

- 02/09 Coral Reef Okinawa (Japan)
- 03/09 GONAF (Istanbul)
- 04/10 Human Origin (NE Africa)
- 05/10 Colorado Jurassic Plateau
- 00/10 Hot spot (Yellowstone)
- 10/10 Aquifer Sand (As pollution in SE Asia)
- 12/10 lake Junin
- 13/10 Seymour Island
- 14/10 Hoemstake DUSEL

現状は以下のとおり。

Human Origin →IODP と連携して島根大・酒井氏と北大・山本氏が検討チームに参加することでCVをIODP-MIへ提出済み。ただし検討グループはまだ活動していない。

Colorado Jurassic Plateau→情報なし。2009年に一度ワークショップを開催している。IGCP-506のテーマにもなっており、窓口を作りたい(井龍部会長補佐と高嶋委員が適任者を検討する)。

Hot spot→現時点で情報無し。

Aquifer Sand→PI の大阪市立大・益田教授を通じて情報を収集することとする（井龍部会長補佐）。

Lake Junin →湖沼掘削に関して国内関係者に協力を求める。ICDP では湖沼掘削は非常に精力的に活動を行っており、陸上部会として執行部に湖沼研究者を引入れるなどの努力が必要。

Seymour Island→PI へ問合せしているが返答なし（井龍部会長補佐から ICDP 事務局へ問合せする）。

Hoemstake DUSEL→現時点で目立った活動はない模様。

○資料5にもとづき、小笠原委員より Reservoir Triggered Seismicity (RTS) at Koyna, India の ICDP WS (2011年3月21-25日) について紹介がなされた。資料内容以上の詳細はまだ不明で、メールにて問合せをしている段階である。興味がある方は参加を検討して欲しい

→ Mori 委員および伊藤オブザーバーが日程調整つけば参加を検討する。

○JAMSTEC の地球掘削科学国内支援の一環で海外 WS への派遣制度もあるので、国際 WS への参加もぜひ前向きに進めて頂きたい（事務局）

■各 ICDP のプロジェクトについて、引続き情報収集および関係者派遣に努力する。

■RTS at Koyna, India について、Mori 委員・伊藤オブザーバーが参加を検討する。

5. 国内動向

○コアスクールの進展状況について

山元委員から資料配布とともに説明があった。

火山岩・深成岩・変成岩類の観察法・記載法に関して技術継承のためにコアスクールを開催して欲しいとの要望が J-DESC 会員機関から寄せられている。今年度・来年度の計2回については産総研がホストとして実施する計画で進めている。産総研の新設コアライブラリーが年内に完成する予定で、2月下旬~3月頃であれば開催可能である。J-DESC 主催・産総研共催で実施し、募集人数は10名、3日間を想定している。今年度・次年度の2回シリーズを検討している。参加費徴収の有無、保険の方法、修了証の有無、コア展開に関わる人件費等、予算について今後検討していく。

◇ 修了証、保険等については IODP 部会での前例を事務局にて確認して情報を展開する（事務局）。

◇ 募集人数として15名程度は確保できないか→実際面では作業スペースが問題になるが、15名までなら受入れ可能と考える。J-DESC 機関から参加する学生の旅費支援として上限1万円

◇ ICDP 側からも J-DESC コアスクールに対して興味があり、将来的に国際的にも展開できるように J-DESC・各機関において検討して頂きたい（東 EC 委員）→まずは国内におけるスクールを軌道にのせたい。国際対応を検討したい。

■コアスクールの募集人員は15名とする。

■スクール実施に関わる諸手続き・前例等を事務局で確認し、必要な情報を山元委員・陸上掘削部会に適宜報告することとする。

6. その他

○伊藤オブザーバーより資料6に基づいて、資料に示す過去の陸上掘削関係の文献等、資料散逸を防ぐために出来る範囲で収集をしたい旨の提案があった。ただし、組織的に行うわけではなく、双方の事情が許す範囲のみで行う。資料について著作権等の問題があるものの、可能な場合はweb等での閲覧を検討する。

○J-DESC 法人化検討チームのメンバーの推薦について

- ◇ 陸上部会としては佐藤部会長1名がメンバーとし、IODP 部会を中心に法人化議論を進めるようにIODP 部会長と調整する（佐藤陸上部会長）。

○次年度体制

- ◇ 齋藤 J-DESC 会長の任期が今年度までとなっており、法人化も念頭に入れて次期会長の推薦（理事会で推薦し、総会にて選任される）を検討しておく。
- ◇ 6名の陸上掘削部会幹事会委員のうち、5名が今年度で任期終了となる。このため、幹事の再任または交代の検討を進める必要がある。幹事は機関代表ではなくて個人が良いが、幹事会の役割が執行部の作成する原案の承認、各委員等の承認などであることから、実際的に活動できる方をお願い頂きたい。

○JPGUにて地球掘削科学セッションが開催されるので、執行部員にもぜひ発表をお願いするとともに、関連研究者に広く周知をお願いしたい（井龍部会長補佐）

○J-DESC ニュースレターについて

年1回J-DESC ニュースレターを発行することになっている。陸上部会および ICDP 関連で見開き1ページ(A3)程度の記事をお願いしたい。年度内に発行したい。（事務局）

- ◇ 年度内であれば、井龍部会長補佐が陸上部会の記事とりまとめ及び ICDP 記事を担当する。
- ◇ 陸上部会の記事として、コアスクールを前面に出す。

○Rapid Response の和訳版について

近日中にJ-DESC Web にアップし、コメントを受付けられるように準備する（伊藤オブザーバー）

○J-DESC 上半期予算状況について陸上掘削部会

事務局より上半期のJ-DESC 予算の執行状況の説明があり、今後の方針等について議論した。

○国内からの掘削提案について

我が国から ICDP に提案できるシーズについて自由討議した。阿蘇・琵琶湖のフォローアップのほか、新規案件についても引き続き検討し、ICDP の活動が見えるように努力していくこととした。